

小倉記念病院 循環器内科日より

つなぐ

Vol.59

2022.12月

心臓の右心房と左心房の間にある「心房中隔」と呼ばれる壁に、生まれつき穴が開いている疾患を心房中隔欠損症という。胎児のときは誰にでも欠損孔があるが通常は自然と塞がる。心房中隔欠損症は右心房や右心室の負担が増え、特に肺に流れる血液の量が増加することで肺うっ血、肺高血圧を引き起こす。

心房中隔欠損症への低侵襲治療が「ASDオクルーダー」だ。ダブルデイスクで傘のような構造となっており欠損孔を挟むように留置する。胸部を切開することなくカテーテルを用いて心房中隔欠損を閉鎖することができるとができる。

この治療を実施しているのがSHDチームだ。大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、心房中隔欠損症、動脈管開存症、肺動脈弁狭窄症など、今までは外科治療でしか治療しえなかった疾患に対してカテーテル治療を行なっている。

構造的な心疾患へのカテーテル治療の歴史はまだまだ始まったばかりではあるが、わたしたちの医療を未来へとつなぐために挑戦は続いていく。



第68回

小倉循環器内科セミナー

2022年 12月19日(月) 18:00~18:30



下肢血行再建後、薬物療法に対する最新の話題

座長 小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児

講師 小倉記念病院 循環器内科 副部長 鱸居 祐輔

参加方法



**ZOOMによる
WEB参加のみとなります!**

ZOOMの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研究会→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

